

5月の県内景況は、円高や大型連休の影響から一部業種で好転。

「売上高」「収益状況」等、5項目のDI値が改善した。

情報連絡員による平成28年5月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は12.5%（前月比+1.6）となっており、「横這い」は44.6%（同+1.0）、「低調」とするところが42.9%（同-2.6）、業界全体の「景況感DI」は-30.4%（同+4.1）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「販売価格」「収益状況」「資金繰り」「雇用人員」の項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、卸売業は「快晴」、食料品製造業、繊維製品製造、商店街、サービス業、建設業は「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、12.5%（前月比-2.0%）と減少しております（好転の回答0件、やや好転の回答7件）（製造業4、非製造業3）。また、変わらないが、69.6%（前月比+16.9）と増加しております。やや悪化、悪化の見込みは、17.9%（前月比-14.8）と減少しております。

平成28年5月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率91.7%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	-14.29	-28.57	0.00	0.00	0.00	-14.29	-14.29	0.00	-14.29	-14.29	-28.57	-28.57
繊維製品製造	66.67	33.33	0.00	33.33	33.33	33.33	33.33	33.33	0.00	-33.33	0.00	0.00
木材木製品製造	0.00	-33.33	0.00	0.00	0.00	-33.33	0.00	-33.33	0.00	-33.33	0.00	-66.67
鉄工機械製造	20.00	-40.00	0.00	0.00	-40.00	-40.00	0.00	-20.00	0.00	-40.00	-20.00	-60.00
その他の製造	-57.14	-85.71	0.00	28.57	-57.14	-28.57	-14.29	-14.29	-14.29	14.29	-14.29	-42.86
卸売業	-33.33	0.00	-33.33	33.33	-33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33
小売業	-66.67	-33.33	11.11	-11.11	-33.33	-44.44	-33.33	-22.22	-22.22	-66.67	-44.44	-44.44
商店街	-20.00	-40.00	-20.00	20.00	-20.00	-20.00	-40.00	-20.00	0.00	0.00	-20.00	-20.00
サービス業	-33.33	0.00	16.67	16.67	-33.33	0.00	-16.67	-16.67	0.00	0.00	0.00	0.00
建設業	40.00	0.00	0.00	20.00	20.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
運輸業	-66.67	-66.67	0.00	-33.33	-100.00	-33.33	-66.67	0.00	-33.33	-33.33	-100.00	-66.67

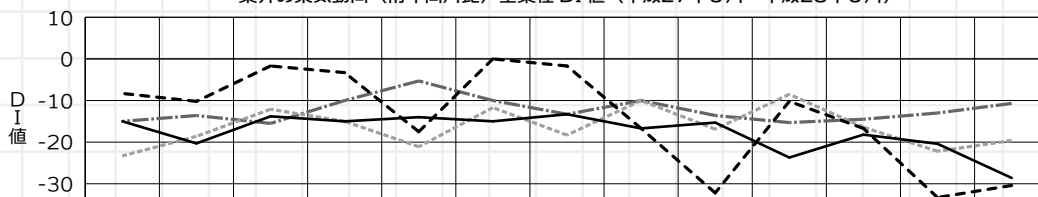
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年5月～平成28年5月）



— 業界の景況
- - - 売上高
... 収益状況
- · - 資金繰り

	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月	平成28年4月	平成28年5月
業界の景況	-15.0	-20.3	-13.8	-15.0	-14.0	-15.0	-13.3	-16.7	-15.3	-23.7	-18.2	-20.4	-28.6
売上高	-8.3	-10.2	-1.7	-3.3	-17.5	0.0	-1.7	-16.7	-32.2	-10.2	-16.7	-33.3	-30.4
収益状況	-23.3	-18.6	-12.1	-15.0	-21.1	-11.7	-18.3	-10.0	-16.9	-8.5	-16.4	-22.2	-19.6
資金繰り	-15.0	-13.6	-15.5	-10.0	-5.3	-10.0	-13.3	-10.0	-13.6	-15.3	-14.5	-13.0	-10.7

食料品製造業

<漬物>

円高により原料価格が下がり、原価が少し下がる傾向がある。しかし、人件費等の値上がりが利益を厳しくしている。

<味噌醤油>

味噌の主原料である加工米が不足気味である。主食米の消費が減少し、飼料用米への作付けに移行する生産者が増加傾向にあるとの情報があり、加工用の価格上昇を懸念している。味噌醤油の出荷量は相変わらず低迷が続いている状況。

<菓子>

夏場の閑散期に入っている。取り扱い製品が生ものため特に気を遣う時期に入り、製造、在庫を調整している。

<酒造>

全国新酒鑑評会金賞受賞数日本一を達成し、今年のイベントも増えてくると思われる。福島県全体がPRできるように企画を考え、県と共同で「福島プライド」を確立したい。IWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）はゴールドが3社と昨年に比べ少ないが、昨年のチャンピオン・サケを中心にPRを予定している。

<食品団地>

原価が上がりつつあり、大型連休においても消費動向が消極的な動きであったため低迷している。雇用においても正社員・パートの求人がなかなか充足しない状況である。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

秋冬物の受注が多く入ってきているので稼働率が良くなってきている。

<縫製業>

年々メーカーからの発注が遅くなり、さらに原料供給の遅れ等が重なり受注の見通しが立てにくくなっている。

木材・木製品製造業

<製材業>

木材製品の荷動きは依然低調で回復の兆しは見えてこない。このため丸太の動きもバイオマス燃料向けを除いて鈍く、価格も低調なまま推移している。

<外材輸入>

大手プレカット工場の稼働率は順調であるが、一般製材品の荷動きは低調な動きに終始し、相場は膠着状態で推移している。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

原材料・副資材ともに高値のまま推移している。小ロットでの受注が多いため生産コスト等、経費の増大を招き、業者が次々に廃業に追い込まれる状態。各社とも現在新しい販路を求めて営業活動に余念がないが、新規開拓は時期的に厳しい状況にある。

印刷業

<印刷>

円高の進行もあり、前年度同時期に比べると材料費の中の用紙代はやや低下傾向にあるが、業況は良いとも言えず、各社ともに収益回復に至っていない。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

同じ建屋の中のレストランが移転のため、今後の焼物販売所への入館者数が減少気味の予測がされる。

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上数量 前月比 約21%減
2. 当月売上数量 昨年同月比 約25%減
3. 28年度売上数量 昨年対比 約18%増
4. 原因・現状 昨年度から土木工事等の発注が非常に少なく、除染工事等も終了してきたため出荷が少なかった。

<生コン>

平成28年5月の組合員生コン出荷数量は、125,832m³と対前年同月比25.7%減。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比21.5%減、官公需が35.1%減であった。

○民需の動向

対前年同月比 21.5%減

対前年同月比減少地区

<県北地区> 21.9%減 福島駅前ホテル新築工事、集出荷場新築工事等

<県中地区> 17.9%減 新福島郵便処理施設、マンション、物流センター新築工事等

<白河地区> 23.4%減 化学工場新設工事等

<いわき地区> 33.0%減 工場、物流センター、マンション新築工事等

<相双地区> 7.5%減 民間企業単身寮、第一原発事務棟整備建設工事、原発保安対策工事等

対前年同月比増加地区

<会津地区> 6.9%増 老人福祉施設建設工事等

○官公需の動向

対前年同月比 35.1%減

対前年同月比減少地区

<県北地区> 23.8%減 腰巡トンネル、県警本部庁舎等

<県中地区> 23.4%減 西部第一工業団地造成工事、三森橋梁下部工事等

<白河地区> 28.9%減 西郷村村民プール建設工事

<いわき地区> 30.3%減 港湾災害復旧、埠頭埋立造成工事等

<相双地区> 41.8%減 減容化施設、廃棄物処理施設整備工事、トンネル、海岸復旧工事等

<会津地区> 43.8%減 復興公営住宅、滝沢浄水場工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<鉄工>

(県中地区)

鉄骨、製缶ともに昨年よりは残業等も少なくなっている。

＜各種プラント機器＞

当組合のプラント設備関連業界は、先月に引き続き集中定修工事の増加に伴い、売上が前月比で3.6倍と大幅な増加に転じた。しかし、前年同月比では81%とやや低調な値となり、先行きに若干の不安感含みの状態となった。

卸売業

＜卸売業＞

(県中地区)

農業資材関係は、時節がら好調の建設資材も堅調に推移。それ以外の業種はまあまあ。人手不足感は引き続き多くの業種で感じているようだ。今まで好調だった業種からも復興特需が終わりに近づいているのでは？との声が聞かれ始めている。

(県北地区)

当組合の販売品目は米穀のみなので、平成27年秋に収穫した米穀を主に秋から初夏にかけて販売している。このため、夏から秋の米穀の収穫時期までは販売数量が激減する。なお、米穀の販売単価は昨年より上がっているが、取り扱い数量が減ったため売上高は増えない。

＜再生資源＞

鉄スクラップは、4月に一時的に持ち直したが、5月下旬にアジア向け輸出市況が下落し低調である。古紙市場は、国内外ともに低調で、今後の厳しさが増す様相である。

小売業

＜共同店舗＞

(県中地区のOショッピングセンター)

一つのテナントが6月に閉店する予定で、閉店前のセールで売り上げが多少伸びている。景気が良くなっている実感は感じられない。経済環境、高齢化が進み、足元の消費人口が目に見えて減少している。

(県中地区のNショッピングセンター)

新たなテナント出店に向けて工事着工した。今後の当施設への来店客増に向けて、既存店舗の活性化が求められる。

＜石油＞

各元売りの仕切価格が上昇する中、小売価格も上昇となった。今後、原油価格の上昇、更に為替の円安等によりコストは一段と上昇すると考えられ、市場価格においても同様と思われる。

＜青果＞

前月から野菜単価の高騰は部分的に続き、全体的に入荷数の減少が響き取扱の増加に繋がらなかった。観光客や修学旅行生は順調に増えてはいるものの、小売店への影響は少ない。

来月からは、梅雨の取扱が始まるが3、4月に低温、霜や雪の影響で入荷が7～8割ほど減少することから取扱の増加もあまり期待できない。

＜家電＞

5月は合展などがあつたが、一部を除き販売の面で悪化が続いている。今夏の猛暑に期待したい。

商店街

＜福島市＞

5月の大型連休に、商店街（街なか）への来街者がどうなるか心配であったが、予想を裏切り程々に賑わいを保って居たように感じる。通常、連休には街なかほか違って閑散としがちであるが、連休が多すぎるせいか遠くへ遊びに行くのではなく、近場でゆっくりと過ごすようになってきているのかもしれない。天候がほどよく悪かったのも一因かもしれない。

＜郡山市＞

5月の末には、商店街の一大イベント『まちなか子ども夢駅伝』が開催され、さらにうすい百貨店の『北海道物産展』が始まった。イベント・物産展とも出足は好調で、土日は前年を上回る来街者があつた。夢駅伝の参加チーム数は過去最大になり、大好評のうちに終了した。イベントからすると、来街者は好調のように見えるが、平日の来街者数がなかなか伸びないことが課題となっている。

＜南相馬市＞

除染作業車両の減少で交通量も大分少なくなり、落ち着きを取り戻しつつある。商店街は、全体としてイベント等もないことから閑散としている。

＜会津若松市＞

5月は寒暖の差が激しく、季節物の動きが悪い一ヶ月となった。ここ最近、特に日曜日の売上げが伸びないという話をよく聞く。週末、郊外に外出するお客様をいかにして呼び込むかは、商店街全体で取り組むべき問題である。

＜いわき市＞

5月のスタート、ゴールデンウィークは芳しくなかった。年々、ゴールデンウィークに休む店舗が増え、買い物目的で街に足を運ぶお客様はだいぶ少なくなった。市内の観光客も大幅減で厳しいスタート。天候は安定した日が多かったので、その後取り戻している様子だが、飲食以外は低調であった。当商店会でも物販店が閉店し、来月、飲食店が開店する。ますます昼の買い物客減少に拍車がかかる。

サービス業

＜旅館業＞

(土湯温泉)

5月の連休後半は、天候が思わしくなかったことから、人出が一時的に落ち込んだ。また、連休終了後からスカイラインの道路工事が開始されたことから県外からの団体観光客が減少している。

＜理容業＞

一般的に天候にも恵まれずまずまずの状況。ゴールデンウィーク終了後、少し中弛みがあつたが、暑い日が続いたこともあり夏メニューが出始まった。ここ数年、業界をあげてクールビズヘアーに力を入れており、天候に合わせたサービスの提供が可能となっている。

＜一般廃棄物収集運搬＞

通常業務については3月より4月実績で若干の増加。震災関連事業が10月からスタートしたが、業務の発注において発注元の都合により発注量の変動が大きいため収益、資金繰りが短期的に悪くなる状況がある。産業廃棄物に関しては、依然として排出量は震災前の水準には届かず、当該事業として苦戦している状況。雇用の安定化を図っているが、南相馬以南の除染

業務に人員を取られている状況がみられる。一般の事業では太刀打ちできない金額の提示で短期間の業務であつても転職していくよう対策に苦慮している。

建設業

<建設業>

(県北地区)

政府は、景気対策として公共事業費を中心に15年度予算の繰り越し分、16年度当初予算の執行を9月末までに8割終える目標を掲げている。

(県南地区)

新たな除染業務（工業用地、道路等）の発注があり、受注が持ち直している。土木工事は減少したままであるが、建築工事は民間の工場新築・増築などが若干増加している。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請とも増加。前年同月累計対比で給水設備申請が減少し排水設備申請が増加している。

<専門工事>

東日本大震災から5年が経過し、集中復興期間と言う温情を受けたにもかかわらず、本県は今なお被害者であり受けた温情では足りないと言えた状況が見え隠

れしている。参議院選挙においても、不満があつたから与党に反対すると公言してはばからない者がいると言う状況が、これからの福島をより一層困難な状態に導くことになるのだらうと思われる。東京オリンピックの動向も直前になって急加速する様相で、首都圏近郊では想定以下にしか仕事が発注されない状況が続いており、危惧していた復興事業終了後の人員の流出よりも、廃炉関係を含めた周辺事業を求めて岩手・仙台から福島に流入してくる業者の方が問題となつてきている。やがて何とかなるだらうではなく、率先して先を見通す行動を起こしていく必要が、官民間わず降りかかっていると感じている。

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

燃料価格が上昇傾向にあり、収益環境は悪化傾向となつてきた。また、建築資材等の運送量も僅かながら減少傾向となつてきている。

<ハイヤータクシー>

5月はゴールデンウィークによる企業の休みの関係で減少傾向である。